

＜株式会社エフエム東京 第478回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和3年5月度

※新型コロナウイルス感染防止のため、郵送またはメールによるレポート対応とさせていただきます。

2. ※新型コロナウイルス感染防止のため、ご参集頂かず、素材の郵送またはメール送付・レポート提出対応といたしました。

3. 委員の出席：委員総数6名（社外6名 社内0名）

◇レポート提出委員（4名）

秋元康 委員	佐々木俊尚 委員
松田紀子 委員	山口真由 委員

◇レポート未提出委員（2名）

ロバート キャンベル 委員長	川上未映子 委員
----------------	----------

◇社側確認者（レポート確認者）（8名）

黒坂 代表取締役社長
西川 取締役副社長
小川 常務取締役
内藤 執行役員編成制作局長
延江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮野 編成制作局次長 兼 編成部長
若杉 編成制作局制作部長
堀内 編成制作局編成部プロデューサー

4. 議題：番組試聴（約27分）

【番組名】 特別番組『Life Time Audio～My First Music「14歳のプレイリスト」』

【放送日時】 2021年4月22日（木）19:00～21:00 放送のダイジェスト 約30分

【番組概要】

今回ご視聴いただくのは、4月22日（木）に放送した特別番組『Life Time Audio～My First Music 「14歳のプレイリスト」』のダイジェストです。

昨年4月26日に開局50周年を迎えたTOKYO FMでは、新たなブランドプロミスとして、「Life Time Audio」＝“伝わる言葉と心に届く音楽で生活者の日々を豊かにするオーディオコンテンツを発信しながら、生活者の人生に寄り添い、生活者と共に心豊かな物語を紡いでいく存在でありたい”…を掲げ、リスナーの人生を豊かにするような、一生ものの音楽体験や音声コンテンツとの出会いの場を提供することを目的に、日々番組をお届けしております。この特別番組は、そのブランドプロミスを象徴する特別番組となりました。

タイトルにもなっている「14歳のプレイリスト」については、2018年に『The New York Times』に掲載された「人は14歳の時に聴いた音楽でその後の音楽好みが形成される」という記事からヒントを得て「14歳の時に聴いていた（好きだった）音楽」をテーマとしました。

番組内では、あいみょんが14歳の時に聴いていたというSPITZの草野マサムネとの対談、大学のサークルを中心に結成したOfficial髭男dismのメンバー4人がまだお互い出会う前を振り返る対談、そして山下達郎、福山雅治からの「14歳の音楽体験」コメントもオンエア。さらに、リスナーからもSNSで「#14歳のプレイリスト」を募集し生放送で紹介しました。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○大変楽しく共感の持てる番組。誰もが必ず通る「14歳」という点にフォーカスし、曲を通じて共通体験を語る。ゲストの話はどれも、どこか自分と重なる部分があり、憧れの存在であったアーティストも、同じ時代を生きた親近感あふれる存在に感じられた気がする。ヒゲダンのメンバーが急に中学2年生の頃に戻る感じも、あいみょんが草野氏を前にときめく中2女子に戻る様子も、福山雅治の「長崎平和会館」の話も、どれもほほえましく聴いた。ラジオの特徴であるセレンディピティが発揮されており、コロナ禍でめっきり減った「偶然の出会い」に満ちた番組だと思う。

○14歳という多感な時期だからこそ、いつまでも心に染み入る感覚を覚えているのかもしれない。他にもいろんな方々の「14歳のプレイリスト」を聴きたいと思った。ぜひシリーズ化して欲しい。リスナーも懐かし楽しい気持ちで参加できるし、ジェンダーや国境の区別もない。誰もが体験してきた「14歳」という点にフォーカスしたからこそこのシンプルで強い企画。

○この手のラジオで気になる、女性ナビゲーターの媚びたアニメ声的な演出が一切なかったのも好感が持てた。語れる企画がしっかりと存在していれば、とてもシンプルな構成で、パーソナリティが1人でもリスナーを満足させることができると感じた。

○以前、海外の老人ホームで認知症の高齢者に思春期時代の音楽を聴かせたら認知症が著しく改善されたという記事も読んだことがある。どの世代のどの年齢の人にも、ティーンエイジャーのころの甘酸っぱい記憶は音楽とともにあり、心のどこかに保管され続けているのだろう。その甘酸っぱさや胸がキュンとなる感覚を番組化するという試み、非常に興味深く、そして楽しく拝聴した。「中2病」という言葉もあるとおり、14歳というのは甘酸っぱいと同時に振り返れば恥ずかしい年齢でもあり、自分自身の14歳を振り返ってもさまざまな思いがこみ上げてくる。

○草野マサムネ氏とあいみょんの対談では、53歳と26歳という世代の対比も非常に面白かった。音楽の情報をどこから仕入れるのかという動線（テレビかラジオか、それともネットか）、かつては親世代と子ども世代では聴く音楽がまったく違っていたという話など、特に草野氏とは世代が近いこともあり「そうだよなあ」とうなずかされる話が多くあった。

○若年層のテレビやラジオ離れが進んだ結果、今では両媒体が音楽の動線ではなくなってしまっているという課題も感じた。ラジオを懸命に聴きながら新曲をエアチェックしてい

た時代は遠い昔になったのだとあらためて思わされた。現在はネットが主な音楽の動線になっているが、テレビ・ラジオと比べれば情報がタコツボ化しやすいこともあり、「好きなアーティストの曲は聴くが、それ以外のアーティストや楽曲には触れる機会が少ない」という問題も生じてきているように感じる。その結果、14歳のころに聴いたアーティストをそのまま年を重ねても聴き続けるだけで、新しいアーティストに触れる機会があまり多くないというのは、音楽業界にとってもあまり良い傾向とは言えないだろう。欧米ではストリーミングのプレイリスト中心に音楽が聴かれるようになり、状況は変わりつつあるが、なぜか日本ではプレイリストがあまり普及していない。この問題にラジオがもう一度どこかで入っていけないだろうか、ということも考える。

○大変面白く聴いた。年代の異なるアーティストがそれぞれの14歳を語っている点良かった。福山雅治氏が語る1983年の時代背景とラジオ、山下達郎氏が語る1967年の時代背景と安保闘争の谷間、Official髭男dismが語る14歳の時代背景とスクールカースト、草野マサムネ氏が語る14歳のLPやラジオ、あいみょんが語る14歳との時代の相違。時代の背景に思いをはせながら聴くことができた。

○14歳のときの音楽経験がそのアーティストの今を作っているというのも興味深かったが、それを前段に置きつつ、山下達郎氏が「14歳は主体的に音楽を選ぶにはやや早すぎる」「すべての音楽の出口は同じ」と言っていたのが、予定調和でなく気持ち良かった。テレビには「予定調和」が多すぎるように思う。ストーリーが予め決まっている、約束事がある、そのルールをきちんと理解していない者は番組から弾かれていく。結果、最初から見えている筋書きに従って淡々と物事が進んでいくように感じる。この番組の場合にも、14歳のときの音楽経験が自らのその後の音楽にそれなりに影響するというストーリーがあって、パーソナリティをはじめ多くの人がある前提を共有しながら進行しているが、山下達郎氏の「14歳は主体的に音楽を選ぶにはやや早すぎる」「すべての音楽の出口は同じ」というおおもとを引っくり返す「不協和音」が心地よく響いた。とはいえ、全ての人奔放になれば覆すための土台が成立しないので、他の人が番組を作り上げつつ、そこにある程度の不協和音が放り込まれる意味と言うのも、気付きになった。バランスと匙加減の問題なのだろうと。今後も、ある程度のストーリーを共有にしつつ、ときとしてそれを引っくり返すという緊張感のある番組を心から期待する。

○欲を言えば、もう少し客観情報が欲しかった。それぞれの14歳は何年だったのかという情報が出ている場合と出していない場合があった。また、14歳のときに聴いた音楽がその後の音楽性を決定づけるというニューヨーク・タイムズの記事、いったいどんな調査なのかをより詳しく知りたかった。さらに、「中二病」と呼ばれるように14歳という多感な時期が人格形成においていかなる意味を持つのか、親の影響下から友人の影響をより強く受け

るようになる時期なのか、などという分析などがあれば、それぞれの主観的なコメントをより奥行きを持って聞けるようになったかと思う。

○素晴らしい企画。14歳の頃に聴いた曲が、その後の人生に大きな影響を及ぼすという説は、どこか頷けるものがある。ようやく自我が芽生え始めた多感な世代、当たり前と言えども当たり前だが、音楽番組の切り口として面白いと思う。『初めて買ったレコードは?』という企画は、これまでもあったが、『14歳のプレイリスト』というタイトルは秀逸。「14歳の頃に流行っていた曲」と混同しているアーティストもいたが、当時のヒット曲に感化されたというエピソードもいいが、兄弟や親や先輩から教わった曲のように、“何がきっかけで、14歳の時に感銘を受けたか?”という話をもっと聞きたかった。

○途中の対談は、特番故のサービス精神というか、目玉を作りたいという制作者の下心が見えて、あまり面白く感じなかった。全体的な比率で言えば、一般のリスナーからの投稿による『14歳のプレイリスト』とプロのミュージシャンによる『14歳のプレイリスト』の比重を、7対3くらいにしたかった。リスナーのエピソードをいっぱい聞きたかったし、その中にプロのミュージシャンの体験話が入るから面白いのだと思う。全体的には、特番ではなく、レギュラー化したいほど、いい企画、クオリティーの高い番組だった。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

5月31日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>